＊胚凍結保存・解凍胚移植について

体外受精治療には（ある程度の）危険が伴います。　その大部分は卵巣刺激・採卵に伴うものなので、何回も採卵を繰り返すより、一度の採卵で複数の卵子をとって、良好胚を凍結保存して（1つずつ）後で戻すことにすれば、より安全に妊娠するチャンスが増えます。
凍結保存・解凍にともない、胚に何らかの影響が加わる可能性もありますが、胎児の発育、周産期のリスク、産科的合併症、先天奇形などの発生率はあがらないとされています。（現在国内全体でも当院でも　新鮮胚移植よりも凍結/融解胚移植による妊娠の方が多いです。）
（当院には日本不妊カウンセリング学会認定のカウンセラーがおりますので、一度ご相談なさることをお勧めします）

それどころか排卵誘発/採卵周期では母体のホルモンが高値のため逆に妊娠しづらいといわれて、現在は多くの施設で　新鮮胚移植よりも、良い胚を全て凍結しておいて後で戻す全胚凍結・融解胚移植が主流になってきています。
そして、排卵誘発に伴う、卵巣過剰刺激症候群を避けることができます。
多胎妊娠を防ぐ切り札として、2007年から体外受精を行う施設には胚凍結保存ができることが学会の施設登録の必要条件となりました。

☆ 2019年に当院で行われた胚移植は合計397周期で、149人妊娠なさいました。
☆ 2017年に国内で行われた解凍胚移植は198985 周期で 妊娠は48060 でした。
（日本産科婦人科学会ホームページによる）

当院での凍結は現在「ガラス化法」で行っています。これは凍結の際に胚を傷つけてしまうとされる「氷晶」ができる前に液体窒素で冷やしてしまう方法です。
凍結された胚は鍵のかかったタンクの中で液体窒素に漬けられて「その時」を待ちます。

凍結胚を解凍して子宮に戻すときの方法は大きく分けて、
1. 自然周期法
2. ホルモン補充周期法
があります。

自然周期法は自然の排卵にあわせて胚を解凍して子宮に戻します。ホルモンなどは自然に体から出ているので、使う薬は少なくてすみますが、(自然に来る)排卵日を特定するのがかなり大変で、予定が立ちません。

ホルモン補充周期法は予定が立つのがよいところです。外からのホルモンで子宮内膜を育てます。（排卵は起こしません）（胚移植後も少なくとも判定の日まではホルモンを使い続けます→妊娠していたらホルモンが続きます）

生理が来たら3日目から貼り薬などの卵胞ホルモンを使って子宮の内膜を整えていきます。充分な厚さになったら黄体ホルモンを使って子宮内膜に排卵後の変化を起こさせて胚を戻します。
妊娠した場合には３ヶ月の中頃までホルモンを使う必要があります。
薬代が(使う薬によるのですが) 1日500～1000円ぐらいかかります。
胚を戻したい周期の生理が来る前に来ていただいて、予定を立てます。（だいたい生理の15日目以降に戻すことになります。）

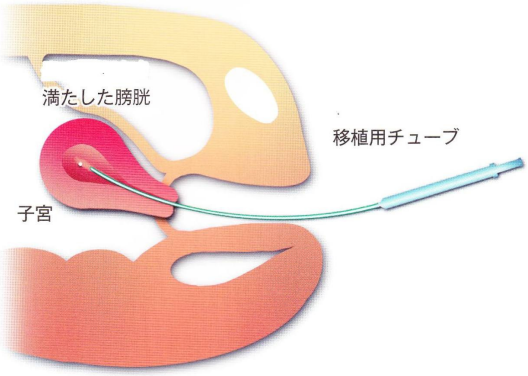
＜貼り薬について＞
原則としては、生理が始まったら(貼ってから2日以内の)エストラーナテープを3枚必ず判定

の日まで使います。

　貼り薬はおなかから背中のどこかに貼ります。(あまり冷たくならないところが良いです。血行が悪いと吸収も悪いです。)　1回貼ると2日間作用が持続することになっています。
2日間持続するっていっても、2日目の終わりには効果が弱くなってしまうような気がするので(メーカーの人はそんなことないっていうんですが)→→→→→→→→→→→→→→→→→→
→生理の2日目にまず1枚貼って、次の日に2枚貼ります。そして、それぞれをそれぞれ2日後に貼り替えます。(いつも3枚有効なものを貼っていることになります)ずらして貼って、同じところに貼らない方がかぶれにくいようです。　テープにマジックインキでいつ貼って、いつ取り替えるかメモしておきましょう。
　テープは伸び縮みしないので、皮膚のしわになるところとか　ねじれる部分に貼るとはがれます。汗をかくとはがれ易くなります。全体がしっかりと張り付いていることが大切なので、上からテープで抑えたりしてもだめです。
　貼り始めて6日以上たったら、血液検査においでください。
　もしひどくかぶれるようなら我慢せずに早めにおいでください。(他に飲み薬とか、塗り薬もあります。)

　解凍胚移植の5日前までに超音波検査においでください。子宮内膜が充分に厚くなっていれば、(移植5日前から)黄体ホルモンを追加使用して、子宮内膜に排卵後の変化を起こします。

　胚移植の時は膀胱に尿を溜めて、内診のときのような体勢をとっていただき、子宮の入り口から細い柔らかなチューブで子宮の中に胚を戻します。このとき、チューブの位置を確認するためにお腹の上から超音波をみますが、膀胱に尿が溜まっていないとよく見えません。条件がよければ胚移植自体はすぐに終了します。　麻酔は使用しません。　移植後ちょっとだけ安静にします。



　胚凍結・胚解凍の手技は100%確実なものではありません。途中で胚が障害を受け、分割を中止する・死んでしまうことがあります。その際には胚移植を中止させていただくことがあります。ご了承ください。

　多胎を防ぐため胚移植は原則1個とさせていただいています。(日本産婦人科学会から勧告が出ています)

胚移植の際にお話しする判定日の朝の尿をもってきていただいて妊娠判定をします。

　胚凍結の費用として、1回の凍結に(4組まで)5万円、(1組は胚2コまで、その組は解凍のときに同時解凍することになりますので、良い胚はなるべく1つずつにします)(5組以上は1組ごとにプラス1万円)解凍に1万円、胚移植に5万円をいただいております。またこの際に必要とな

る、排卵日を調べるための検査、超音波検査、またはホルモン補充に用いる薬剤などは別途実費をいただいております。（税別です）

凍結胚の保管は１年単位とさせていただきます。この期限を越えて保存の延長を希望される方は保管期限までに追加の保管料をお支払い下さい。期限までにお支払いのない場合、または下記の場合には胚を廃棄処分とさせていただきます。

ア　夫婦が離婚したとき。
イ　夫婦の一方が死亡/行方不明の場合。
ウ　夫婦の一方が廃棄を申出たとき。
エ　生殖年齢を超えたとき。

※どちらか一方でも胚移植に同意できなくなった場合には速やかにその意志を当院にお伝え下さい。

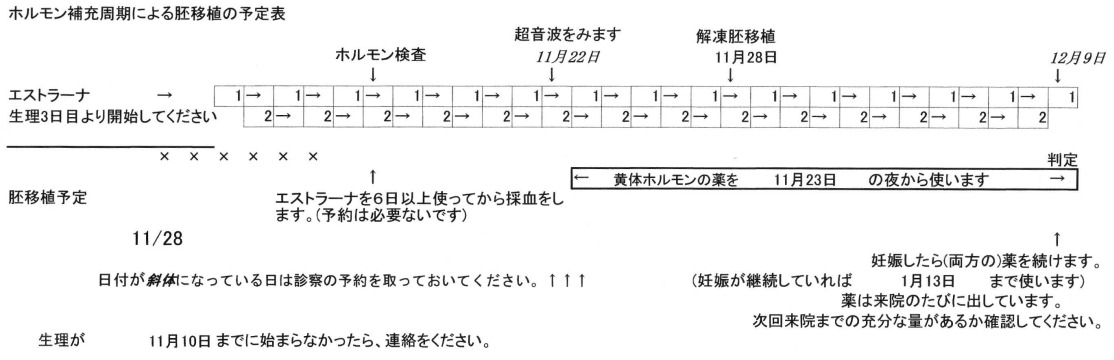
なお、胚凍結、保存は解凍して移植することを前提にしていますので、もうこれ以上お子さんがいらないという場合はご連絡をお願いします。

天災・不慮の事故等により、保存不能になった場合には、ご容赦ください。

院長の突然の事故などで、凍結保存胚が健全に保たれているのにもかかわらず、当院が機能不全に陥った場合には、残りの職員が日本産科婦人科学会、群馬大学医学部産婦人科などと連絡を取って、当院で体外受精/解凍胚移植治療を継続できるように努めます。しかしながらそれがかなわなかった場合には前橋市の横田マタニティホスピタルに胚を移送、保存し、解凍胚移植治療を引き続き受けられるようにお願いしてあります。その際にはご不便をおかけしますが、ご了承いただければ幸いです。

H25.1より、女性ホルモンの薬の注意書きに子宮内膜増殖症といわれたことがないか、家族で子宮内膜増殖症、または子宮内膜癌、そのような病気はないかを確認し、投与前に乳房検診を行うことという１項が追加されました。　思い当たる方はお申し出ください。また、前もって乳房検診を受けておくことをおすすめします。

※個人情報保護について　該当する皆様が不妊治療費助成を受けるために当院では日本産科婦人科学会に施設の成績を報告しなければなりません。（これは助成の条件となっております）個人のお名前は一切提出いたしませんのでご理解をお願いします。また学会発表などの際にも個人のお名前は一切出すことはありませんのでご理解をお願いいたします。



ホルモン補充周期による胚移植の一例